

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(17)

——第156号から第165号——

門 田 俊 夫

第156号 1711年8月29日(水曜日)

【スティール】

だが君は、幾度となく誓いを破られたにもかかわらず、
これまでと変わりなく、颯爽と異彩を放っている。

(ホラティウス)¹⁾

時折の気晴らしとして話題に供するものとしては、ロンドンのご婦人方の間で羽振りを利かせている人気者つまり寵児にまつわる話ほど愉快なものはないと思います。この話をするときには、どんな男性を気に入ったのかご婦人方の真に迫った告白を入手しなくてはなりませんし、男性からもどんな振舞いや衣裳によって事がうまく運んだのかを聞かなくてはなりません。小生としましては、男性がご婦人方のために着飾るのも、キツネ狩りとかウサギ狩りの服装のように気楽に考えています。ご婦人に気に入られる男性は、雰囲気も振舞いもほかの人たちとは全く別種のことを備えているものです。身なりはほかの人たちよりもだらしなく無頓着ですし、マナーも吞気でだらしないのです。つまり、身なりもマナーも、明らかに無頓着でぞんざいに見られるように努めている訳です。鳥撃ちをする人たちは、獲物を仕留めるとき

1) ホラティウス『頌詩』2.8.5-7

に、鳥を誘い込もうとして鳥の鳴き声を真似ます。こういった男性もまた、誘惑したいと考えている女性の真似をするのです。色男は女性には何が通用するか熟知しており、好意とは無縁で、風邪に効果的なものを熟知していますし、突然気分がすぐれなくなったときのためにポケットに酒瓶を忍ばせていても構わないと考えています。

小生の情熱を強く煽るものに好奇心があります。実際、好奇心は小生の生活において唯一の楽しみといっていいほどのものになっていますので、時々、自ら進んで、うまく事が運んださいのマナーとか社交上の才はもちろん、密通の成り行きについて吟味してみたくになります。小生の観察したところによりますと、みんなから好かれる人物で分別を備えている人にはお目にかかったことがありません。振舞いはどこか風変わりで、生き方にはどこか気まぐれなところがあります。男性の間では馬鹿げていることが、女性には好ましいものに思われているのです。小生のお話は幸運な人々の気分を害するかも知れませんが、かつての伊達男に目を転じて見て下さい。成功する人物は、女性の間で目立つためには、見当違いと思えるほど女性のために争ったり、ほかの人々とは変わった服装をしたりしながら、日々女性のために無味乾燥な努力を払ったのです。おまけに、色恋に身を捧げる女性を喜ばすためには、ほかの女性にも受けがいいとの評判を獲得しなくてはなりません。なぜなら、女性には、他人の支配下にある男性を自分のものにしたいという野心が強くあるからなのです。友人のウィル・ハニコームによると、目当ての女性に気に入られるためには、その女性の好敵手から好かれていると邪推してもらわなくてはならなかったということです。ちょっとした意地悪は美人にはつきものです。別の女性にとられたくない一心で、気に入らない男性と結婚してしまうということがよくあります。かの愚かな「厚顔無恥」氏は、どういうわけか、女性同士に話し合いをさせない技を備えているため、交際するすべてのご婦人方とうまくやります。女性たちがもし心底彼を好いている人が誰もいないと知れば、全員瞬く間に彼を拒絶することでしょう。ところが、女性同士は本音を言わないのが慣習となっていますので、彼はみんなから受け

がよいのです。お互いに対抗心がありますので、無意識のうちに他の女性の真似をしてしまうのです。彼に最大の魅力を与えていることは、女性たちは彼のことを愉快的な泥棒と呼ぶのですが、この泥棒がこのうえなく浮気な人物であることを、素晴らしい機知とユーモアを備えていること、そして決して重要なことを語りたがらないということなのです。もうひとつおまけに、彼を怒らせると、非常に口が悪くなり物騒な喋り方になるということなのです。

女たらしになるには分別があってはなりません。要は愚か者でなくてはならないのです。女性を楽しませることが仕事ですので、何が正しいかを判断する能力というか説得力があればいいのです。すべての女性にとって随員として最も心地よいのは、定期的に訪ねてきてくれることです。しかも報酬も拔擢も期待しないで自発的に奉仕してくれる人が望ましい訳です。随員は公の場から女性を誘い出し、約束の日に受け入れてもらい、重苦しい一日の何時間かを女性たちと過ごせたらそれで十分なのです。ところで、ご婦人方を墮落させることで名高い人々に目を向けてみますと、彼らは現代が生み出す選り抜きの人たちです。ロンドンの社交界には、圧倒的な魅力を備えたこういった紳士が何名かいます。彼らは宮廷や町で起っている事柄に精通していますし、品行の点を除けばどちらかといいますと、育ちのよい人たちです。公人としては憤みがありますが、私人としては自墮落な人たちと言えます。

面白いことに、自惚れの強い女性は見せかけだけの女たらしは無視します。だが、色恋に身をやつしている女性は誰もが、真面目な人たちが口にする常識的なことにはほとんど耳を傾けず、途切れることのない甘言を喜びます。こういった女性は、男性たちの他の女性への振舞いを見て自己主張ができるだけの情婦にはなれません。従って、この種の偽りがあるのだという一般的な評判自体が長所となります。そこで、多くの女性に気に入られている伊達男は勝者のように歓迎され、当面の女性の犠牲者に留まっていることをいさぎよしとしないのです。

公の場で常軌を逸した身のこなしをし、やけに目立ち、周囲の人を無視し、無視することで周囲の人たちを抹殺しようとしている人がいたら、その人は

多くの女性を零落させてきた人物と考えても間違いはありません。女たらしは、もっぱら、いわゆる「気取り」といった身のこなしをして自己表現します。つまり、胸は張る、帽子にはひだをつける、歩き方はゆっくりと整然としている、眼差しは如才なく周囲に向ける、これらが女たらしの特徴となります。時々、こういった社交の才を備えた紳士にお目にかかりますが、嘆かわしいことに、彼らは数多くの女性を零落させるのです。以上の点に相応しい学問が付与されると、こういった紳士の存在に対しては、全員妻や娘を避難させた方がよいとの警告を出さざるを得なくなります。場合によっては、そういった立派な紳士が詩集はすべて、喜劇は数篇読破しており、オヴィディウスの『書簡詩』の翻訳を暗記しているということがあります。²⁾こんな人がその通り実際に魅力的だったらどんなことになるでしょう。大変なことになります。女性たちはこういった不実な人をみんなして共有することになるのです。「彼の喋るほんのちょっとした色恋の言葉を耳にすると、女性は聞き惚れます。彼に扇の骨の数を数えさせ、何か愛の使者のようなことを語らせ、彼が学び取った甘美な名称を駆使させてごらん下さい。どうなることでしょう。確かに、か弱き女性がこういった迫力で攻め込まれた場合には、女性側にはなんらかの言い訳は可能になります。」以上は、日々堂々と女殺しに精進している人に会ったときの、多くのご婦人方の独白です。

人々が非常に手堅い美德を見落として、非常につまらない美点に感心して、ある種の気取った態度を取るのは確かです。女性は分別を欠いた愚かな動物だと侮辱されるのを嫌がっていますので、美しさを保てる間は、自分がまだ欲望の対象になっているのだということが分かっています。そこで、軽薄な書物の影響で密かな野心といったものを抱きます。そして軽薄な交際を続けて、双方の欠陥を好ましいものと考え、結局は男性は裏切者に、女性は誓いを破ることになる訳です。

2) 1680年に初めて、ドライデンたちによるオヴィディウス『書簡詩』の英訳本が出版された。

第157号 1711年8月30日(木曜日)

【スティール】

守り神よ、あなたは私たちの生誕を、星を左右し、
人間性を付与なさる。もっとも、私たちひとりひとりは
死を免れることは出来ないが。(ホラティウス)¹⁾

ラテン語で「インドレース(天分)」といわれるものを英語で何と表現したらいいか非常に迷うところです。子供を教育するときには、また、人生設計を立てるときには、芸術にしろ科学にしろ専門職にしろ商業にしろなんらかのものに対して生まれながらにして備わっている資質を十分考慮しなくてはなりません。自らの能力を公平に判断するのは実に困難であるのは確かです。他人からすると、たいしたことでもなくても、自分にとっては素晴らしいものに見えることがあります。小生もこれまで自己を溺愛するあまり、自分の才能では限界のあることに手を出してきたかも知れません。ところが、他人の能力、とりわけ幼少期の能力を判断するのはそれほど困難ではないように思えます。小生の備忘録を見えますと、アレクサンドロス大王の偉大さの兆しに関するメモが出てきます。若い頃オリンピックに出てみないかと言われたとき、彼は王たちと競うのなら出てよいと応えたそうです。²⁾カエサルに謀反を企てた一人カッシウスも彼の気性を示す大きな証拠を残しています。彼は子供の頃、自分の父親はローマの民の長だと口にした遊び友だちのスラを殴ったのです。³⁾スキピオは、(晩餐の席で阿諛追従する家来たちから、將軍が亡くなられた後ローマはどうなることだろうと語り掛けられとき)マリウスがいるのではないかと応えたとのこと。⁴⁾マリウスはそのときほんの

1) ホラティウス『書簡詩』2.2.187-9

2) プルタルコス『アレクサンドロス伝』(『英雄伝』)4.5.

3) プルタルコス『ブルトゥス伝』(『英雄伝』)9.2.カッシウスはカエサルの部下になったが、ブルトゥスらと共謀してカエサルを暗殺したローマの將軍。

4) プルタルコス『ガイウス・マリウス伝』3.3.マリウス(155?-86B.C.)はローマの將軍・執政官。

小さな子供に過ぎず、武勇の兆しは何一つ示してはいませんでした、スキピオにはマリウスの物腰からこの少年が際立った仕事が出来た人物になるのが分かったのです。正直なところ、小生は、学校の先生たちの大半が無知で分別がないことを思いやり、しばしばグレート・ブリテンの子供たちの不幸を大いに嘆き悲しんでいます。⁵⁾彼らの勝手気ままな振舞いは、子供たちがグラマー・スクールで曝される長い隷属状態の心痛と恐怖に対するあさましい報いにはかなりません。こういった愚かな暴君の多くは、子供たちの能力や子供たちのことを思う親の気持ちのことを少しも分らずに残酷な行為に及ぶのです。子供たちにはアリストテレスやキケロやウェルギリウスには向かないけれど、慎重に注意深く育み啓発するに足るそれ以外の優れた気質を備えた子供も沢山います。こういった偉人の著作は一言一句理解する能力はあるが、生まれながらにして彼らの著作に全く興味を示さない子供も多いのです。子供の世話をする人たちにこのことに対する明白な洞察力が欠けているために、あらゆる年齢層の夥しい数の子供たちが優秀な学者を育てようとする先生たちによって鞭打たれています。彼らは近づきはしますが、決して正しい英知を獲得することにはならないでしょう。これでは学問、ひいては教える側の人たちの名折れになります。規律正しい世の中を維持するには、体罰を課さなくても、恥辱感と信義を重んじる気持ちさえあれば事足ります。汚れない無邪気な子供たちの教育ということになればなおさらのことです。年間を通じて、体罰を受けるのではないかという不安があるために、先生の言うことが分からなくなっているというのに、阿呆だと鞭打たれる少年が数多くいるのは間違いありません。想像力を働かせ過ぎると誤解してしまうということはよくあることです。先生が説明しているときに、しっかり聞いていれば間違はずはあります。ところが、間違った解釈をしたことぐらいのことでも情け容赦しません。生徒が体で受け止める苦痛で知性の間違いをた

5) 「むち打ち」に反対を表明したのはスティールが初めてではなかった。1693年に、ロックが抗議した経緯があった。スティールは第168号でもこの抗議を繰り返している。

だす積りなのです。

鞭打たれないと学問に目が向かないような少年は、鞭打れても何かに気づくことはないと確信しています。まともな心の持ち主ならそのような侮辱を受けて平気でいられるはずはありません。知識を向上させようとする力が失ってしまうのは嘆かわしいことです。いわゆる優秀な学校を終えた人なら誰でも、(成人になってから発揮される) 気高く優れた資質を備えた子供たちがいたのを記憶しているはずです。つまり、こういった教育を受けた経験のある人なら誰でも、つぎのような光景を覚えているに違いありません。ラテン語の詩を作るときに音節の長短を間違えた純真な子供が、情け容赦のない鈍感な先生に向かって、その過ちを許してもらうために、恥辱感で顔は蒼ざめ、今にも泣き出さんばかりに哀願しながら、脅えた眼差しをしてひざまずくのです。その子供は罰せられ、翌日も同じような罪を犯し、三日目も同じことの繰り返しとなります。小生としては、道理をわきまえた人に、純真無垢で心のすんだこの少年が、一晚に詩を20編作れるのですが、ひとたび恥辱感にまみえ才気のひらめきが消え失せた場合、その後立ち直ることが出来るかどうか尋ねてみたいところです。

セネカは語気を強めて、「不死の神々は美德を学ばなかったが、善はすべて付与されている。このように、生まれながらにして自分のやるべきことが分かっている人がいるものだ。こういった人々は、一を聞けば直ぐにそれを自分のものとしてしまう。」のだと語っています。⁶⁾植物や野菜は手をかけないと立派な実をつけません。だが、傷つきやすく意識的な人物に美点を発揮させるためには、材木を切ったり、石を削ったりするのと同じ方法を用いなくてはなりません。

自由な教育を受けたものの苛酷で残忍な振舞いをする人がいるのは、もっぱら以上のひどい慣行のせいであるかも知れません。紳士に相応しい養育を受けながら、悪人のように罰せられることは、実際には、時々著述家に伺え

6) セネカ『道徳論的書簡集』95.36.

るあの狭量な生意気さを生み出すに違いありません。

(盗んでコートの下に隠し持っていた) キツネに臓腑を食べられたスパルタの少年は、おそらく、私たちイギリス人が優秀な学校で学ぶ才覚ないし短気なところをほとんど持ち合わせていなかったのでしょう。⁷⁾しかし、この少年がこの行為で示した見事な体面つまり不面目を恐れる気持ちに関しては、恥辱感を忘れたすべての学問はこれを見習うべきです。

私たち人間は少しでも怠慢になると駄目になり、向上するには大変な勤勉を必要とするということは、大層憂鬱なことに思えます。すなわち、最も優れた気質は瞬く間に減じますが、邪な気質を善良なものにするには長い時間がかかるのです。このとき処罰の力を借りることは、殺すことで病気を治すようなものです。音節の長短が間違っているからといって罰せられるときには、罰を受ける者は理性的な存在に値しなくなり、鞭打ちといった警告にしか反応しない獣の状態に置かれることになります。しかし、グレート・ブリテンの紳士階級の人々はこういった鞭打ちによる教育を体験していますので、憂いに沈んでいる誠実な少年たちはそのうちに隷属状態から解放され、少年たちの意向にかかわらず十四歳や十五歳で鞭打たれることはなくなると思います。子供たち一人一人の能力を出来るだけ早く見極め、もし高等な仕事に向いていないと分れば、生まれを考慮しないで何か手仕事に就かせるべきです。勉強が出来ないことは罪でもなんでもないのでですから、そんなことで不快な目に遭わせ、人間性が貶められ、その結果、投げやりな気持ちを抱かせるようにしてはならないのです。わが国の学識のある長短いずれのローブを羽織っている人も、学校時代に鞭打たれたことがある場合には、気高く寛大な心の持ち主になっていないと言っているではありません。⁸⁾だが、彼らがそういった恥ずべき仕打ちを経験していなかったなら、はるかに気高く寛大な人物になっていたものと確信します。

7) プルタルコス『倫理論集』234A「スパルタの格言」。『リュクルゴス伝』18.1。
リュクルゴスはB.C. 9世紀頃の古代スパルタの立法者。

8) 伝統的に、長いローブは法曹界や聖職界、短いローブは軍人が着用した。

以上のように、生まれながらにして備わっている素質についてはほとんど関心も払われず注目もされませんが、「観察者」としての小生にとって、他の動物の「天賦の才」については相応しい評価がされていることは、少なからぬ慰めとなっています。これに関しては、つぎに掲げるリンカン州で出されたイーノス・トマスという署名入りの広告をご覧くださいと思います。この方のことは残念ながら存じ上げていませんが、馬に関して深い知識をお持ちと見受けられます。

「栗毛馬、名前はシーザー。育ての親はジェイムズ・ダーシー殿。産地はヨーク州リッチモンド近郊のセドベリー。祖母は高貴な雌馬。父はブランダーバス。祖父はヘムズリー・ターク。曾祖父はクーランド氏所有のアラビア種。さらにその一代前はミンシャル氏所有のジューストランプ。シーザーは、(五歳のとき、レース前の試走をただけで)ある貴族の手に。買値は三百ギニー。ひと跳ねが21シリング、下男は1シリングなり。イーノス・トマス。」⁹⁾

第158号 1711年8月31日(金曜日)

【スティール】

こういったことは取るに足らないことだ。(マルティアリス)¹⁾

常々不公平にならないようにと心掛けていますので、本日は以下の手紙を掲載いたします。この手紙が小生の意を強くするものであるかどうかは別問題です。

拝啓

貴殿がかつて実に巧みな命名をなさったものですが、貴殿のおっしゃる「狂詩曲」を拝読して、貴殿が多くの先達が打ち立てた執筆の原則をねじまげる

9) 1711年3月24日『ポスト・ボーイ』紙に、4月にニューマーケットのレースに出場する馬のリストが掲載された。

1) マルティアリス『警句』13.2.8.

ことに腐心しておられるものとお見受けしました。²⁾小生の年齢は五十代半ばで、光栄なことに、喜ばしいチャールズ二世の御代の第一級の趣味人であり洒落者の方々とお付き合いしてきました。控え目に申ししても、当時の私たちは今日の人たちに負けないだけの分別を備えていたものと考えます。

「観察者殿」はどうかといえば、尊大なことに貴殿は私たちの振舞いのまさに根幹を揺るがそうとしているものと思われます。才人を気取りながら、女性の貞節は強情のなせるわざであって、この性癖こそが人生の最上の規範だとし、美德と悪徳は健全と不健全にはかならないとするのは、奇怪なことであります。私たちはご婦人を楽しみ心持ちにしてあげただけであって、願望がそれに随伴したに過ぎません。それから、またキケロを引き合いに出されていますが、来世に関する貴殿のお説は、陽気さと上機嫌を破滅させる元凶に過ぎません。³⁾どうか理性や人間性に対する威厳を過度に自慢なさらないでいただきたいものと思います。言っておきますが、獲物の存在を指示する猟犬にもイングランドの人間に負けないくらいの立派な分別が備わっているのです。貴殿の発行する日刊新聞によって、そう考えられがちですが、ロンドンの売れっ子だと気取っているとしたなら、前もって情熱と欲望に身を投入しておくべきだったのです。そうすれば貴殿のお作りになられる歌はイングランド中の人々に口ずさまれ、二行連句はご婦人方や才人の座右の銘となったことでしょう。でも残念なことに、貴殿には何も期待できません。みんな『スペクテイター』を読むことで気分が悪くなってしまうのですから。もし貴殿が不実なコーリナを魅力的に描写していたら、彼女を好きになったゾーイラスの言い訳に何か人間味溢れるところを見つけだしていたら、つまり、各人の不面目とうまく折り合いを付けさせる余地を残しておいてくれたら、貴殿は称賛されたはずで、ところが実際は、貴殿は私たちのことをお認めにはならないので、私たちとしては貴殿のことをたたえる訳にはいかな

2) 狂詩曲に関しては第144号参照。

3) 第138号、139号、146号、153号ときかんにキケロを引用するスティールは、第154号に見られるように、サイモン・ハニコームから抗議されている。

のです。貴殿に申し上げたいことは尽きませんが、つぎの一言で、用は済みます。要するに、貴殿のお書きになる内容は紳士に相応しくないということです。

敬具

拝啓

先日、私たち数名がティーを飲んでいた時のことです。いつもの習わしでもあり、貴方の助言もあって、みんなして『スペクテイター』をまわし読みしていました。そこには貴方の言う「ご婦人に気に入られる男性」に関する貴方のありのままのご意見が述べられていました。⁴⁾ 私たちとしては定期的に訪問している人のことは除いて、貴方のおっしゃることはごもっともとだと考えました。このとき、みんなから小生が一同を代表してペンを持ち、現在交際している人たちを解任するに相応しい分別のある人たちが現れるまでは、現在の付き合いをやめる気はないと伝えて欲しいと頼まれた次第です。貴方は私たちが理性と分別のあるやりとりよりも下品な冗談を交わして面白がっているとお考えのようですが、私たちにとって社交のない生活は考えられず、私たちの間ではどんなに取るに足らないことでもまったく何もないよりはましなのです。私たちは社会の接着剤の役割を果たしているのであって、人々の関係を円滑にするために生まれたのです。従って、私たちにとって孤独は人道にもとることなのです。分別を備えられた立派な方々が厳格なところをほんの少しお捨てになられれば、そのことはお分かりになられます。そして今は他人事でしょうが、喜びを見いだされるはずです。私たちの交際や私たちの真価に心から関心を寄せると、自然に何事でも悪びれずに口にするようになります。そして、女性の前でも何か取ってつけたことを言う必要はなくなります。これは男性だけの交わりでは見失われたり無視されていることなのです。勝手ながら言わせていただきますが、貴方ご自身がもう少し私たちとお近づきになられましても、なんてことはないのです。貴方が時々お

4) 第156号参照。

見せになれる自信過剰の断定的な物言いが直ることは間違いありません。
貴方の心変わりを期待します。

敬具

従順な一読者より

拝啓

貴方が女性への心遣いを公言なさっておられることで、ご婦人方はおそらく他の人はいざ知らず、貴方の忠告は重く受け止めるかも知れません。そこで、お願いですが、貴方が時折さわりを述べられるだけでぞんざいに扱っていらっしゃるテーマについて、繰り返し論じていただきたいと考えていることがございます。もっぱら生まれの良さについて論じられた『スペクテイター』紙が手元に一部あります。それを読みますと、貴方は私たちの行状には時と場所を十分考慮しなければならないと主張なさっていますので、教会での振舞いについて論じていただくのが適当と考えます。先般の日曜日、私たちの教会ではある謹厳な牧師様が説教なさいました。この牧師様の口調には少し独特なところがありましたが、奇をてらうほどのことではありませんでした。クスクスと笑う連中は、この独特な口調を彼の説教の中で特に注意を喚起すべきものと考え、説教の終わるまでずっと浮かれるネタとしたのです。一人は扇を口に当て今にも吹き出さんばかりになりました。一人は離れた席にいる仲間に向かって合図を送るのでした。そして一番平静を装っている四人目の人物も今にも押し殺した笑いで窒息せんばかりでした。彼女たちじっと目をやる紳士たちが大勢いました。彼女たちはこの視線を自分たちに色目を遣っているのであって自分たちに気があるのだと考えました。なかでもとりわけ陽気な女性がいましたが、彼女はそのとき自分には指が5本しかないことに気づき、繰り返し繰り返し扇の骨の数を数え始めました。そして、彼女は自分が的になっているのだと気づき吹き出すのをやめました。観察者殿、こういった場合には、ちょうど治安判事が騒動を沈静するように、教区委員が杖をふるって、その場の品位を維持する方が得策ではないでしょうか。

敬具

拝啓

小生はご婦人に気に入られる男の一人です。貴殿がねたみから私たちのことを攻撃なさっている新聞をさる立派なご婦人と共に拝読しました。小生がどうしたと思われますか。言っときますが、彼女はきちんとした身なりをしていました。その彼女に小生が『スペクテイター』を読んで聞かせたのです。すると、彼女は小生のことだと思われる箇所では笑い声を上げたのです。小生は貴殿のお説教を無視して、彼女のガードルに手を添えつぎのように叫んだのです。

私にこの腰帯にくるまれたものをおくれ、

つきまとうほかの者たちを魅了しておやり。⁵⁾

彼女は微笑んだのです。そして、貴殿のことを絵空事を言ってらっしゃるのだわと言いました。そういう訳ですので、小生のことはお好きなように語って下さい。セネカをお読みになって、小生への反論に相応しい箇所を引用なさったらいいのです。⁶⁾

敬具

第159号 1711年9月1日(土曜日)

【アディソン】

私が必滅の視力につきもののもややかすみを溶かしている間に、
あなたは視界からそのかすを一掃してしまいなさい。

(ウェルギリウス)¹⁾

グランド・カイロに出向いたとき、²⁾今も持っていますが、私は東洋の写本

5) エドモンド・ウォラー (1606-87) 「ガードルについて」 11-12.

6) アディソンは第39号と第93号において、セネカの引用をしている。この手紙はスティールの創作と考えられる。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』2.604-6.

2) グランド・カイロについては第1号参照。

を幾冊か入手しました。その写本の中に、題名が『皇子の夢想』というものがありますが、私は非常に楽しく読み終えました。³⁾みなさんにとりましても、とても面白いものと考えますので、これを披露したいと思います。第一の夢想から始めます。私の翻訳によりますとつぎのようになります。

月初めの5日は、私は先祖の習わしに従っていつも神事に供することになっています。沐浴をした後、朝のお祈りをすませ、一日を瞑想とお祈りに捧げるためにバクダッドの山に登りました。山の頂で外気に身をさらしていたとき、人生の虚栄について深い黙想に陥りました。つぎからつぎに考えが浮かび、私は「きっと、人間は影で、人生は夢にすぎないのだ。」との台詞を発しました。こんな思いに耽りながら、直ぐ近くの岩山の頂に目をやりました。すると、そこに、小さな楽器を手にして羊飼いの衣服をまとった人物がいるのに気づきました。私が見てみると、この人は楽器を口に当て曲を奏で始めました。音色は実に甘美で、筆舌に尽くし難いほど調子が美しく、またこれまでに一度も聞いたことのない様々な旋律を奏でたのです。この旋律を聞いていて、私は善良な人々が亡くなった後、人体から離れた靈魂が初めて天国に到達した時、臨終の苦しみの痕跡を払拭し、天国の喜びを享ける資格を与えるために演奏されるという妙なる調べを思い起こしました。私の心は神秘的な恍惚状態へと吸い込まれていきました。

私はこれまで何度も目の前にある岩は守護神の住まいだと教えられていました。さらにまた、ここを通りかかると楽の音が聞こえてくるということでした。だが、楽師が姿を現わすとは聞いたことはありませんでした。私が彼の奏でる妙なる旋律に気持ちが高揚し、彼と話が出来るのだと驚愕の表情で見つめていますと、彼は私に自分の坐っているところまでやって来なさいと手招きしました。当然のことですが、私はうやうやしく、超越した存在であるこの方のところまで身を寄せました。私は耳にした魅惑的な調べにすっか

3) 「皇子」という称号は、サー・ジョン・シャーディン『ペルシア及び東インド旅行記』(1686) にさかんに登場する。この寓話に似た話は「エラスムスの対話」とか「聖アンセルムスの瞑想」などいろいろなところに登場する。

り心を奪われていましたので、彼の足元にひれ伏し涙を流しました。すると、この守護神は私の気持ちを安心させてくれるような愛想よく同情的な表情を浮かべて微笑んでくれました。そこで、私は近づいて行くときに感じていた恐れも不安を瞬く間に消え失せました。つぎに、彼は、私の身体を起こして、手を取りながら、「皇子よ、あなたの独白を聞いていて、あなたの心の中がよく分かった。私についていらっしゃい。」と語ったのです。

それから、彼は私を岩山の頂まで連れて行き、そこに坐らせて、「東の方角を見てごらんなさい。何が目に入りますか。」と言いました。私は「大きな谷とその谷の間を流れる水かさを増した川が見えます。」と答えました。「あなたの目にしている谷は悲嘆という谷であり、川は永遠という流れの一部なのです。」と彼は言いました。私は「どうして川の源の方も流れて行く先の方も濃霧に包まれているのですか。」と尋ねました。「あなたの目にしているものは、「時」という永遠の一部なのです。時は太陽によって刻まれ、この世の誕生から終末にまで達するのです。」と彼は言いました。この川がこのように両端が濃霧に包まれ暗くなっているかよく見て、目に付いたことを教えて下さい。」と彼が言いました。「川の中央に橋がかかっているのが見えます。」と私は言いました。「あなたが目にしている橋は、人生なのです。注意深く見てごらんなさい。」と彼は言いました。目を凝らしてみますと、この橋は70のアーチから成っているのが分かりました。壊れているアーチもいくつかありましたが、これらが百ほどのアーチの中に加わっていました。私がアーチの数を数えていましたら、彼の話によると、この橋は元々千のアーチがあったのだが、大洪水で流されてしまって、現在の荒廃した状態になったのだということでした。彼はさらに、「何が見えるか言ってごらんなさい。」と言いました。私は「大勢の人々が渡っており、橋の両端には黒い雲がかかっています。」と言いました。さらにもっと注意深く見てみますと、その下を流れる川に落ちていく人々がいるのが見えました。じっと目を凝らして見てみますと、橋には無数の落し穴があり、それを踏むとたちまち川の中に落下し、瞬く間に見えなくなってしまうことに気づきました。この秘密の落し穴は橋の入口付近

に集中しているので、雲の中を通り抜けたと思うとすぐに大勢の人々がその落し穴にはまるのです。橋の中ほどでは人々の数が少なくなりましたが、身体を寄せ合って無傷のアーチの端に向かって進むのです。

実際には何人かいましたが、その数は知れたものでした。彼らは壊れたアーチを足を引きずりながら歩き続けていましたが、長く歩き過ぎて完全に疲れきって、一人また一人と落下して行くのです。

私はしばらくの間、この不思議な構築物とそれが提示する実にさまざまな光景について瞑想に耽っていました。中には楽しく陽気に過ごしている最中に不意に落し穴にはまり、救いを求めて手当たり次第に何かにすがりつこうとしている人たちがいるのを目にして、私は気持ちがひどくふさぎました。物思いに沈んだ顔つきで天を見上げている人たちがいましたが、彼らもまたその最中につまづいて落下して見えなくなっていました。多くの人たちは目先のキラキラと映え揺れ動いている実体のないものをせっせと追いかけていましたが、たいていの場合、もう少しで手が届くと思った瞬間に、足を取られて落下して行くのです。このような入り乱れた光景の中で、偃月刀や尿瓶を手にしている人たちがいるのに気づきました。彼らは橋の上をあちこち走り回りながら、人々を目には見えない落し穴へと追いやっていました。この人たちはもし強要されなかったら、落し穴にはまることはなかったことでしょう。

楽師は陰鬱な想いに耽っている私を見て「もう十分でしょう、橋から目を離してほかに不思議なものが見えたら教えて下さい」と言いました。目を転じてみますと、鳥の大群が橋の辺りをひっきりなしに飛び回り、時々、欄干に舞い下りている光景が目に入りました。「あれは何ですか。」と私は尋ねました。「コンドル、ワシ、ワタリガラス、ウ、そしてその他数多くの鳥にまじって、アーチの中ほどに無数にとまっている小鳥が見えます。」すると、楽師は、「あれは、ねたみ、強欲、迷信、絶望、愛、その他人生に横行するさまざまな心配事や情念なのです。」と言いました。

私はここで大きなため息をつきました。「ああ、人はいたずらに造られたの

か、人はいとも簡単に悲嘆と死に身を委ねてしまい、人生においては苦痛を味わわされ、あげくは死に飲み込まれてしまうのか。」と私は言いました。私に同情した楽師は、「こんな嫌な光景はそれぐらいにしないで。」と言いました。彼は、「もうこれ以上、第一ステージで、永遠への旅を始めている人間に目を向けるのはよして、何世代もの人々が落下して行くあの川を覆っている深いもやに目を転じてご覧なさい。」と言いました。言われた通りに、そちらに目を向けますと、楽師の超自然的な力が働いたのか、それまで見通せないほどたれこめていたもやが晴れて、谷はさらに遠くまで広がっており、広大な大洋にまで延びているが分かりました。そして、大洋の中央には堅固で巨大な岩山があり、大洋が二分されているのが分かりました。その一方はまだ雲がかかっているために、何も見えませんでした。もう一方は無数の島が点在する広大な大洋が広がっていました。この島々は、果物や花々に覆われており、光り輝く数多くの海が島と島の間を縫うように走っていました。素敵な衣服をまとい、頭には花冠を付けた人々が、木々の間を散策したり、泉の傍らで横になったり、花壇で休息を取っている姿が見えました。そしてまた、さまざまな鳥のさえずりや水の滴りや人の声や楽器の音色が聞こえてきました。私はこのようなとても心地よい光景を目にして嬉しくなりました。私にワシの羽があればいいのに、そうすればあの楽しい場所まで飛んで行けるのにと思いました。だが、楽師は、「あそこへ行くには橋で見た死の門をくぐらないとだめなのです。」と言いました。「あなたの眼前に青々と明るく横たわっており、見渡す限り大洋が点在しているように見えるあの島々は、数の上では、海辺の砂の数にまさるのです。見えている島以外にも、あなたの目に入らなく、想像もできないほどの、もっともっと数え切れないほどの島が隠れているのです。この島は善良な人々の死後のすみかなのです。美德の程度と種類によって、つまりその人のたしなみに相応しい島が割り振られるのです。どの島も住民一人一人に適した楽園なのです。皇子よ、このすみかを獲得するために競う価値はないでしょうか。こういったご褒美を手にするチャンスを与えてくれる人生が惨めだと思えますか。このように幸せな存在

へと導いてくれる死を恐れることが出来ますか。永遠の世が準備されているのですから、人間がいたずらに造られていると考えてはいけません。」と楽師は言いました。私は言葉では言い尽くせない満ち足りた気持ちでこの幸せな島々をじっと見つめました。やっと私は口を開きました。「お願いですから、あの堅固な岩山の一方の端の大洋にかかっている雲の背後には何が隠されているのか教えて下さい。」と。楽師から何も返事がありませんでしたので、私はもう一度話し掛けようと振り向きましたが、彼は姿を消していました。そこで私は再びこれまでずっと思いを馳せていた光景に目を転じました。すると、そこにはもはや渦巻く川やアーチのかかった橋や幸せな島は見えず、目にしたものは牛や羊やラクダが草をはんでいるどこまでも続く何の変哲もないバクダッドの谷に過ぎませんでした。

以上、「皇子の第一の夢」はこれにてお終い

第160号 1711年9月3日（月曜日）

【アディソン】

神聖な心と高潔なことばの持ち主にこそ、

この名前を用いる榮譽が与えられる。（ホラティウス）¹⁾

しばしば作家に与えられる評判としては、天才であるとの評判にまさるものはありません。私は幾多のソネット作家が「申し分のない天才」だと呼ばれているのを耳にしたことがあります。わが国の二流の英雄詩人にしても、崇拝者からは「偉大なる天才」と呼ばれていますし、半可通の悲劇作家にしても、人によっては「桁外れの天才」だといって激賞します。

本日の紙面での目的は、本当の意味での偉大な天才とはどんなことかを考え、このまれなテーマについてあれこれ考えをめぐらせることにあります。

偉大な天才たちの中でも、世界中の人々から賞賛される人々はごく少数で

1) ホラティウス『諷刺』1.4.43-44.

す。彼らは技巧つまりは学識の助けを借りないで、ひとえに持って生まれた資質によって人類まれに見る天才とみなされ、同時代の人々を楽しませるとともに後世の人々の驚異となる作品を生み出してきました。こういった生来の偉大な天才には、どこか粗削りで突飛ですが実に堂々とした点が伺えるように思えます。フランス人は社交や内省や非常に洗練された作家の著書を読むことでみがかれた天才のことを「才人」と呼ぶのですが、生来の天才には、この才人たちが持つ優美さや洗練さよりももっと美的なものが漂います。一方、あらゆる学識を飲み尽くした偉大な天才というものは、どこかにこの学識の色合いを帯びてしまい、どうしても模倣から抜け出せないもののなのです。

こういった教育を受けた結果ではなく、また、技巧のルールに乱されることもない天賦の才に恵まれた偉大な天才の多くは、古典作家、とりわけ東洋よりの地域の作家の中に見出すことができます。²⁾ホメロスはウェルギリウスには不可能であった飛躍を数多く見せていますし、旧約聖書では、ホメロスよりも高揚し崇高な文章が見受けられます。³⁾より偉大でより大胆な天才は古典作家に認められるのですが、細やかさとか精緻さという点では現代作家の方に軍配があがると言わざるを得ません。古典作家の天才たちは、比喩とか引喩という点では、類似性があるということだけを取り上げ、比較の品位についてはあまり意に介さなかったのです。例えば、ソロモンは愛する者の鼻をダマスコを見下ろすレバノンのやぐらになぞらえますし、⁴⁾新約聖書でも「盗人が夜やってくるように」と同種のたとえを用いています。⁵⁾この種の例は数限りなくあります。ホメロスは、敵陣に包囲された英雄を村の少

2) デュ・ボスは『詩および絵画論』(1719)の中で、この一節を引用している。

3) 長い間、ホメロスはウェルギリウスよりも独創性と荘厳さを持ち合わせていたが、同時にウェルギリウスよりも欠陥が多くあったと考えられてきた。

4) 旧約聖書『雅歌』第7章第4節：「あなたの首は象牙のやぐらのごとく、あなたの目は、バテラビムの門のほりにあるヘシボンの池のごとく、あなたの鼻は、ダマスコを見おろすレバノンのやぐらのようだ。」

5) 新約聖書『テサロニケ人への第一の手紙』第5章第2節：「あなたがた自身がよく知っているとおりの、主の日は盗人が夜くるように来る。」

年たちから脇腹をこづかれ身動きできなくなっている麦畑のロバにたとえたり、⁶⁾ 憤りのあまりベッドでのたうちまわっている英雄を炭火であぶられている一片の肉にたとえたりしています。⁷⁾ 古典作家に見られるこういった特殊な失敗例は、才人のはしぐれに嘲笑させる原因を提供しますが、彼らは品位を欠くたとえを笑いこそすれ、自分たちの著作に崇高さを植え付けることはできません。この東洋的な思考方法に合致している現ペルシャ皇帝は、華やかな肩書を数多く持っていますが、自分のことを「栄えある太陽」および「歓喜のニクズク」と称しています。要するに、古典作家、とりわけ、想像力にも熱気と活気のみなざる温暖な土地の作家の揚げ足取りをやめるには、フランス人のいう引喩の文章作法は、後年、それももっと寒冷な土地で考え出されたのだということを斟酌しなくてはなりません。力強さと意気に欠けている点は、わが国の文章作法に見られる用意周到な細やかさと精緻さによって修正が施されたのです。かのシェイクスピアはこの種の偉大な天才の顕著な例だったのです。

この題目について述べるとなると、ピンダロスを挙げない訳にはいきません。ピンダロスは天賦の才に恵まれた天才で、彼の広範な着想も気高い想像力のほとばしりも、生来の情熱と衝動に駆られた結果だったのです。実直で節度のある想像力しか持ち合わせない人物が、昨今ピンダロス風と呼ばれているようですが、彼らの奇怪な文章においてピンダロスの模倣をしてみますと、えもいわれぬほど滑稽なことになってしまうのは確実なところです。⁸⁾ ホラティウスが述べているところですが、⁹⁾ 人々が無二無類の作品を模倣しているのを見掛けますと、そうです、人々が不規則なルールにならい、小細工をして無理やり無限の飛翔をしようとしているのを見掛けますと、私

6) ホメロス『イーリアス』11.558-65.

7) ホメロス『オデュッセイア』20.25-30.ボワロー (1636-1711) も『ロンギヌス考』(1712) 第6章でこの比喩について論評をしている。

8) 第58号, 第147号参照。

9) ホラティウス『頌詩』4.2.1-4.

としましては、テレンティウスのつぎの一節を引き合いに出さざるを得ません。

不確かなことを確かなことだと考えようとするくらいなら、
気が触れたふりをしたほうがよろしい。¹⁰⁾

簡単に言いますと、ピンドロスになぞらえられる現代の作家は、ウェルギリウスの女予言者になぞらえられるカミザールの尼僧のようなものなのです。¹¹⁾そこには、精神を高揚させ、高尚な響きを与える神聖な力は何一つ備わってなく、歪みと気取りと外面だけなのです。

私がつぎに挙げたいと考えている天才がもうひとつあります。この天才を上記の天才と区別したのは、これまで述べてきた第一の天才より劣っているという訳ではなく、ただ両者は質が異なると考えているからなのです。この第二の天才という人たちは、あくまでもルールにのっとり、偉大な天性の才能を技巧が要求する矯正や抑制に服従させてしまいます。この手の人たちの例を挙げますと、ギリシアではプラトンとアリストテレス、ローマではウェルギリウスとキケロ、わが国ではミルトンとサー・フランシス・ベーコンがそうです。¹²⁾

第一、第二の天才はともに等しく偉大ですが、その質は異なります。第一の天才の場合は、ちょうど氣候に恵まれた大地の肥沃な土壌のようなものであって、見事な草木を数限りなく結実させ、秩序や規則性といったことは何も加えなくても、あたりに実に美しい景観を添えてくれます。第二の天才の場合も同様に氣候に恵まれた大地の肥沃な土壌なのですが、これは遊歩道と庭があって、庭師の手によって美しく形が整えられたものなのです。

後者の天才の場合、危険なのは生来の能力を十分に発揮しないで、模倣に

10) テレンティウス『宦官』61-63.

11) カミザールとはフランス中西部セヴェヌ地方のカルヴァン派新教徒。スペイン継承戦争中に反乱を起こしたが、鎮圧された。多くはイギリスに逃れ、「フランスの預言者」として知られた。ダーフェイ (d. 1723) に同名の戯曲がある。

12) アディソンはミルトンの天才を後天的なものともっている。

依存して、すべてをお手本に基づいて作り上げるきらいがあるということです。最善の著者を模倣するだけでは、元の作品とは比較にならないのは確実です。私の考えでは、自身の考え、つまり、独自の表現をしない限り、どんな作家であれこの世で異彩を放つことはありません。

面白いことに、偉大な天才は時として些細なことにとらわれることがあります。

かつて私は、イタリアのある著名な作家が、玉子を空中に放り上げて、それを割らずに受け止めるといった遊びをしながら、寂しさを癒している羊飼いの姿を描いているのを目にしたことがあります。この羊飼いはこの遊びにすっかり熟達し、玉子を一度に4個手にして、つぎつぎに空中に放り上げ、ひとつずつ手中におさめるまでになったのです。この作家に言わせると、この遊びに夢中になっているときの羊飼いの厳粛な表情は、これまでお目にかかったことはないと思われるということでした。羊飼いの驚嘆すべき忍耐力と熱心さは枢密顧問官の謹厳実直さに匹敵したということなのです。私としましては、羊飼いのこの傾倒ぶり、つまり集中力が違った面に向けられていたら、彼はアルキメデスよりも優れた数学者になっていたかもしれないと思わざるを得ませんでした。

第161号 1711年9月4日（火曜日）

【バジエル】

聖なる日には、質朴ではあるが飾り立てて、
農耕の神々に供物を捧げる。そして、草地に座り込み屈託なく
足を延ばす。草地の中央に炉をもうけ、
牧人たちは心地よい火の周りで、乾杯の杯を重ねる。
バックスを求め、褒美をとらせるという。馬丁は台所で反抗し、
弓を引きねらいを定める。いざレスリングといって衣服を脱ぎ、
手足に油を塗り付け、相手方をやりこめんとばかり待ち構える。
質素なサビニ人はかくのごとき生活をしていた。

神とあがめるレムスとロムルス兄弟はこんな生活をしながら成長した。

禁欲的なエトルリア人の美德は、この二人にその源流がある。

そして、質実なわが祖先はこの粗野な生活を選択したのだ。

かつてのローマはこの種族から生まれたのだった。

(ウェルギリウス)¹⁾

過日私が田舎に出掛けたことで、寄稿者の数が増えたことを嬉しく思っています。そのうちのある人からつぎの手紙をいただきました。

拝啓

貴殿は町に早く戻られたことに満足なさっておりますが、今後貴殿にとって田舎の出来事は目を向ける価値がないものとお考えにならないでいただきたいと思います。小生はサー・ロジャー・ド・カヴァリのお宅で貴殿の短頭に接する光栄に浴した者です。それ以降、小生は貴殿のお人柄と著述には非凡なところがあると思っている次第です。貴殿がもう数日田舎に滞在なさっておられれば、田舎の徹夜祭をご覧になられたことでしょうか。徹夜祭というのは、ご承知のイングランド各地で行なわれる教区教会の祝祭のことです。先日、小生は近隣の教区で行なわれた徹夜祭に行ってきました。教会の前庭には老若男女多数集まっていました。彼らはそれぞれ精一杯目立った格好をしていました。全員晴着をまとっており、数カ所に人だかりが出来ていました。それぞれ得意の芸を競い見物人の賞賛を浴びようとしていました。

小生は棒術試合の輪に加わりました。これは相手の脳天を割って女性陣の心を射止めようとするものでした。生きのよい若者が運悪く脳天を割られましたが、彼の傷の痛みを倍加させたのは、ある老人が首を振りながら「これで色黒のケイトとはこの3年は結婚できないだろうな」といっているのを小耳に挟んだことでした。さらに、芝生の方の端でフットボールが行なわれ

1) ウェルギリウス『農耕詩』2.527-34.

ているのが目に入りました。²⁾ここではトム・ショートの技量が抜きんでおり、誰もが「彼の独身生活は来年の徹夜祭までは続かないだろう」という意見でまとまるようでした。フットボールは小生も何度もやったことがありましたので、少し離れた小高い場所に陣取っている女性の姿さえ目に入らなかったら、もっと長くこのゲームを観戦していたことでしょう。この女性はあれこれとしかめっ面をしながら、実に奇妙にいたたまれないように身体全体を曲げたりよじったりしていましたので、小生としましては気になってしかたなかったのです。彼女の傍まで近寄ってみますと、彼女がレスリングを見ているのだと分かりました。³⁾恋人の小柄な男が筋骨たくましい大男と闘っているところでした。小柄な男が大男に激しく振り回されていましたため、彼女は密かに心がかき乱されていたのです。敢えて言わせてもらいますと、彼女は「目に見えない姿になってあの強い男の足を引っ張ってやりたいものだわ」と言ったシェイクスピアの描くシーリアの心境だったのです。⁴⁾教区の郷士から全員に大樽入りのエールが振舞われ、最強のレスラーには褒美にビーバーの山高帽子が贈られることになっているのです。そこで若者たちは対抗心を燃やして大いに技を磨くことになります。幾度となく小生がほとんど気づかないほど素早く足をすくって相手を宙に浮かしている者がいるのには驚きました。ベテランのレスラーは、二、三人投げ飛ばすほどの手強い相手が現れるまではリングに上がりませんでした。彼らは帽子を防衛するために満を持していたのです。ビーバーの帽子を獲得した人は、家の一番目立つ場所に掛けておき、家族の者たちからは家宝として紋章よりも価値のある物とみなされたのです。ある人物が忙しそうにこの試合を取り仕切っていました。この人物は貫禄の表情を浮かべていましたので、どなたかと尋ねてみますと、

2) フットボールは冬季に人気のある運動。中に空気を入れた人の頭ほどの皮製のボールを使用、道路で行なわれた。

3) レスリングの歴史については、ストラット第2巻第2章参照（1903年J.C. コックス編）。

4) シェイクスピア『お気に召すまま』1幕2場。

即座に「彼は何も自慢しませんでした、彼と彼の先祖は数多くの帽子を獲得し、彼の家の居間はまるで男性用服飾品店のようなありさまになった」のだという返事が返ってきました。全員にこの譽れを手にしたい気持ちが強くあるために、小生が観戦中には、三人以上を倒すチャンピオンは一人も生まれませんでした。

棒術とかフットボールとかレスリングを見物していない娘さんたちもいました。彼女たちは何か別の遊びに興じているのでした。小生と同じ教区の農夫の息子に、何をそんなに熱心に見ているのかねと尋ねてみますと、自分はベティ・ウェルチが棒投げをして力比べをしているのを見ているのですとの返事が返ってきました。どうやらベティ・ウェルチは彼の恋人だったようです。

要するに、男性陣は女性陣に、自分たちは臆病ではなく、また、健康そのものであって肉体労働しても疲れはしないといったありさまを見せようとしていたのです。

現在、私たちの田舎では、愛情と武勇の示し方は以上のようなことになっております。どうかこれに対して貴殿のご意見をいただきたいものと思えます。

敬具

僭越ながらここで学者および政治家の振りをさせていただきますと、こういった身体の運動つまり競技は、元々ギリシアで発達したのです。そしてその後、ローマ人がギリシアにならって、競走、レスリング、跳躍、投擲、ボクシングからなる五種競技を始めたのです。⁵⁾もっとも、賞品は、その当時は帽子は流行していませんでしたので、イトスギかオランダセリの冠でしたけど。イングランドでは昔は一定の資産に達しない者はすべて長弓を携え、その技

5) ギリシアの五種競技は、短距離走、幅跳び、槍投げ、円盤投げ、レスリングであり、ボクシングは入らなかった。バジェルは力説しているが、ローマは運動や体操をギリシアほど真剣には受け止めなかったようである。

を身につけておくように義務づけられた法令が定められていました。⁶⁾このため、長弓に関しては我が先祖は他の国々に抜きんでいました。そこで、わが国は、常備兵がいなくても優位に立てたのでした。⁷⁾かつて私は、著者が気高い目的を持って、庶民が徹夜祭で露にするこの対抗心について考察している書物に出くわしたことがあります。この著者は、この対抗心を利用して、手工芸品の進歩改良を図るために、毎年最も秀でた技を持つ人物を表彰してはどうかと提案しています。こういった政策的なことには私も紙幅がいくらあっても足りませんので、この点に関してはひとまず棚上げにしておきますが、田舎のお祭りで伺える最大のメリットは、若者を一同に集まらせ、彼らに自分の長所を存分に発揮させる機会を提供することなのです。相手を投げ飛ばす若者は、たいていの場合、女性のことで成功を収めます。というのは、足の早い娘はスモックつまりシュミーズを獲得すると同時に夫をも獲得するのが、ごく一般的になっています。⁸⁾こういった毎年恒例の催しから愛が芽生え結婚に至るのは当然の成り行きなのです。それゆえ、私は、これ以上健全な子供あるいは幸せな縁組みはほかにはありそうにありませんので、寄稿者にお知らせいただいた男女双方が互いに自分を売り込むこのやり方を大いに是としたと思います。宮廷のご婦人方にも不出来な若い夫をトム・ショートと喜んで交換したいと考えている者も数多くいることでしょうし、色黒のケイトのためなら虚弱な配偶者と離縁したいと願っている上流紳士もいることは間違いありません。

博学のケネット博士が書いておられますが、⁹⁾こういった集いが最初に設

6) ウィンチェスター法 (1285)。年収が百ペンスに満たないものは全員、弓矢を所持することが義務づけられた。治安対策としての軍事制度で、現在の警察制度に相当する犯罪の取り締まりや防止策などが定められた。

7) 職業軍人への出費と危険性に反対するトーリーへの皮肉。

8) 1711年5月30日、『デイリー・クーラント』紙に、「ランベス・ウェルズにて明日31日、女性3名による遊歩道3周のホランド・スモック・レース開催」との広告が掲載された。

9) ホワイト・ケネット (1660-1728) は、広教会派の聖職者で、当時はピーター

けられたときの主たる目的の通り、この場が愛情の交換となっていることを、私は大層満足しています。本日の紙面は、博士の言葉を引用して締めくくりたいと思います。

博士はつぎのように語っています。「こういった徹夜祭は古代のアガペーつまり愛餐会を模倣したものだった。イングランドではグレゴリウス教皇によって始められたものである。教皇はメリトゥス修道院長宛ての書簡で教会の外に木々の枝でこしらえた小屋とかあずまやで行なうようにとの指示を出したのです。」¹⁰⁾博士はさらにつぎのように付け加えています。「この賞賛に値する徹夜祭という慣習は、気難しいピューリタンがカトリックの遺物として排斥しはじめるまで、長年に渡って続いたのである。だが、次第にピューリタンの生真面目さが一般的となり、エクセターのある条令によって、直属受封のウォルター男爵が徹夜祭禁止を打ち出すにいたった。ところが、ロード大主教がこの革新的な気風に異議を唱え、国王が禁止令を破棄することになったのである。」¹¹⁾

第162号 1711年9月5日(水曜日)

【アディソン】

どんなことがあっても、調和を保つように気を配りなさい。

全体を一致させ、一様になるように努めるのです。

(ホラティウス)¹⁾

世間の人々に軽蔑的で卑劣に映る真の反道徳的行為としては、特にそれが信仰や党派ということに関する場合、無節操ほどひどいものではありません。

バラの執事だった。この一節は彼の『オックスフォードおよびバッキンガムシャー生活誌』(1695)から引用されている。

10) メリトゥス(d. 624)は、第一代ロンドン司教。

11) サー・ジョン・ウォルター(1566-1630)。この禁止令に関しては、サー・リチャード・ベイカーの『年代記』(1684年編)参照。

1) ホラティウス『詩の技法』126-7。

信仰、党派いずれの場合も、おそらく立場を変えるさいには、たんに義務感からそうするのでしょうが、立場を変えてしまうと、離れていった側の人々から憎まれるだけでなく、新たに加わった側の人々からも心から尊敬されることはありません。

それゆえ、こういった人生の大きな選択をするさいには、非常に強固な信念に基づかなくてはなりません。そして、可能ならば、世間の事情からそれしかないと思える時宜に適ったものにすべきです。そうしないと、人々は意地悪くとして、彼が宗旨変えしたのは軽はずみか私利私欲からであって、原理原則からではないと考えてしまいます。転向者とか変節者はどのような場合であっても、世間からあっぱれな動機に基づいたものだと見られるように特別の配慮をしなくてはなりません。さもないと、親しく交わる人々からどれほど賛同され、是認されても、有徳の士からは軽蔑の対象とされ、世間からは汚名を浴び嘲笑の的になると考えた方がいいのです。

自身の選択に委ねられている人生設計に優柔不断であったり、人生設計を遂行するにあたって無節操であることは、私たちを不安と不幸に陥れる最大かつ最も普遍的な原因となります。一方に野心、他方に利害、三つ目として心の動き、そしてこの三者を受け入れない理性が入り乱れますと、往々にしてさまざまな党派を渡り歩く一生を過ごすことになってしまいます。こういったさまざまな誘惑に心が揺れる場合には、何も選択せずに老いて、大部分の人々がやっているように、生き方を決定しないで死ぬよりは、最善のものとは言えないが自分で選択した生き方を決定した方がましです。この点に関しては、安心させてくれる方法がひとつだけ存在します。その方法とは、私たちが追求する主要で究極の目標として、崇高な目的をひとつ定めそれに固執してぐらつかないことです。富とか評判とかそれに類したことは考えずに、主たる目的に合致する理性の指示に基づいて生きる決意を固めれば、安定した喜びに満ちた人生を送ることができます。だが、半端な考えに基づいて行動し、徳だけでなく、富も評判も、そしてまた世間が駆り立てるあらゆる価値に重きを置いた場合は、惨めさと悔悛のうちに死を迎えることになります。

私たち人間は元々こういった弱点を受け入れやすい傾向がありますので、これから身を守るためには並々ならぬ注意が必要となります。人間というものを入念に見詰め直してみますと、人間は森羅万象の中で最も移ろいやすい存在であることに気づきます。²⁾悟性という点に関しては、私たちはしばしば時と場合によってまさに同一の意見を採用したり排除したりします。ところが、人間よりすぐれたものあるいは劣ったものは、おそらく全く意見を持たないでしょうし、かりに持ったとしても迷いも疑いも持ちません。私たちよりすぐれたものである神々は直観的洞察に、劣ったものは本能に導かれます。意志という点に関しては、反道徳的行為を犯し、改心します。最高絶対の審判者である神からすると、人間は愛すべき存在であると同時に憎むべき存在でもあります。そして、人間は罪を犯し、許しを請いながら一生を過ごします。これに反して、人間より劣ったものは、罪を犯すことは出来ませんし、すぐれたものは悔い改めることは出来ません。前者は義務とは無縁であり、後者は永遠に罪と徳を背負わされているのです。

人生という舞台では、絶えず心の変化と変革が求められるものです。幼年期の考えは、青年期には失われ、成年に達するとまた違った展開を示し、老年になると再び幼年期に戻ります。新たな肩書がついたり、予期せぬ成功を収めると、戸惑いを覚え、ある意味ではアイデンティティが破壊されてしまいます。まるで心からの祝福を受けたり不幸な目にあったりするように、曇ったり晴れたりするだけで、私たちは大きな影響を受けます。夢は私たちに変化を添え、夢が持続している間は私たちの状態も変化します。健康や病気、そして心身の変化は言うまでもありませんが、激情に駆られると私たちは別人のようになってしまいます。もし人間がこの弱点を備えているために他の存在と区別されるとしたら、人間同士の間で目立つということをどのように考えたらいいのでしょうか。人間が最も変りやすい存在であるということは、

2) 「人間はきわめて自己矛盾した生き物である。最も偉大な英雄が時として恐がりであったり、才気煥発な才人が時として鈍感であったり、最も偉大な政治家が時として異様な振舞いをするものだ。」(『タトラー』紙第7号)。

とりわけ、完全無欠な存在が昨日も、今日も、いつまでも変ることがないと考えれば、きわめて取るに足らない特徴でしかありません。³⁾

こういった移ろいやすい気質や自己矛盾が人間の最大の弱点であるように、この弱点で際立つ人物はほかのなにものにもまして滑稽な存在となってしまいます。こういった人物はあれこれと取り沙汰され、あい対立するまだらな人格を備えた人物と見なされてしまいます。ホラティウスの中で最も滑稽な人物は、このむらのある気性と不規則な振舞いがその人物創造の基礎となっています。

ティゲリウスはしばしばつぎのような気性を露にするのだ。
父親あるいはカエサル自らが歌を所望しても、無駄だった。
彼はだんまりを決め込むのだった。だが、最高の気分になれば、
一日中歌い、乾杯さえもするのだった。最高音域のトレブルを
発するかと思えば、最低音域のベースを披露するのだった。
非常に落ち着きの悪い彼は、まるで強盗や借金取りから逃れる
かのように走り回るのだった。行列を作って練り歩くときには、
背筋を伸ばして威厳に満ちた歩き方をする。
召使を200人従えているかと思えば、わずか2人のときもある。
力強く尊大な声で、英雄や王の話をするかと思えば、
どうか慈悲深い女神よ、生き長らえるための肉と飲み物を
ほんの少しでいいからお恵み下さい、
どうか風をよけるコートをお願いします、
このコートはひどくお粗末だけど、満足している、とも言う。
この節約家の節度を保った凡庸な欲望しか抱かない彼に、
莫大な資産が転がり込むと、九日で無一文になり、
再び零落してしまうのだ。
彼は一晚中歌い、飲み、遊び、朝方ベッドにつき

3) 新約聖書『ヘブル人への手紙』第13章第8節：「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない。」

昼間はずっと高いびき。

誰ひとり彼のこんな生き方にはうなずけない。

彼ほど自己矛盾した生活を送っている者は

他には見当たらないのだ。⁴⁾

我が読者には、このホラティウスの描く人物とそっくりの人物を手近なところから紹介したいと思います。我がドライデン氏が見事に描いているのです。

この手の人物としてはジムリが群を抜いていた。

多芸多能な彼は、全男性の縮図に思えた。

考えは硬直しており、常に間違っていた。

万事思いつきで、長続きするものはひとつとてなかった。

彼は、月が一回転する間に、化学者、フィドル奏者、政治家、

道化役をすべてこなした。さらに、女性のための絵画、詩作、

飲酒にも通じていた。おまけに酔狂には事欠かなかった。

瞬時も何か新奇なものを望み、享受できた狂人に祝福あれ！⁵⁾

第163号 1711年9月6日(木曜日)

【アディソン】

もしあなたに手を貸し、あなたの心に安らぎを与え、

あなたが現在気にかけていらっしゃる心配事を軽減してあげたら、

それはあなたにとって価値のあることだろうか。

(エンニウス)¹⁾

4) ホラティウス『諷刺』1.3.3-19.

5) 『アブサロムとアヒトベル』544-54.

1) ケクロ『老年論』1.1.所収「エンニウス(239-169 B.C.)『年代記』第10巻」
エンニウスは叙事詩『年代記』によって、国民叙事詩の可能性を拓いたため
「ラテン文学の父」とよばれ、ウェルギリウスなどに大きな影響を与えた。

幸福の探求とか幸福獲得の法則といったものは、人類にとっては、必ずしも必要で有用なことではありません。それよりも、慰撫することとか苦しむ人を元氣付けるといったことの方がずっと大切です。現世で期待できる最上のは満足感です。これよりもっと高度なものを望むと、悲嘆と失望に出くわすのは必定です。現時点を安泰にし、幸福は将来に残しておくための手だてに研究や努力を傾注すべきです。

実は、現世のあらゆる人々に分散されている幸福をひとまとめにして、ただ一人に振り向けたとしても、その人はこの上なく幸福な人物とはならないのです。ところが、それに対して、あらゆる惨めさをただ一人に集中させますと、その人はこの上なく惨めな人物となってしまうのです。

私はつぎの手紙のテーマに心が引かれます。この手紙は偽名になっていますが、これは架空のものではないと考えています。

拝啓

私は貴方の門弟の一人で、貴方がお定めになられるルールを守るよう努めております。私の置かれています状況に貴方が同情を寄せていただけるものと確信します。私の状況を手短にお話しさせていただきます。貴方からも紳士とお認めいただけるものと確信していますが、ある紳士から言い寄られて三年になります。彼には資産以外にも魅力的なところが沢山あります。私の友人たちは誰もが彼の人柄を称賛していますが、彼らは私たち二人に気を遣ってのことではなく、心から彼の情熱に好意を寄せてくれます。私自身はどうかといいますと、すっかり情熱に身を任せていますが、なんらかの転機が訪れて幸せになれるのではないかという期待を胸に暮らしてきました。私は密かに好ましい人物は彼以外にはいないのだと思っているのです。三ヶ月ほど前に、彼から叔父が亡くなりかなりな遺産を受け取るようになったとの手紙が届きました。この遺産はほかならぬ私たち二人の幸せの行く手をふさいでいるあらゆる障害を取り除いてくれることになるので、歓迎すべきことだと言うことでした。おそらく、貴方は私がこの手紙を受け取って非常に喜ん

だと思いでしょう。事実、その後も、誠意に溢れ、これ以上の表現はないと思えるほどの愛と喜びに満ちた手紙を何通かもらったのです。ところが、なんとお伝えしたいのか分かりませんが、先週のこと、この不幸な紳士の親友から一通の手紙が届いたのです。この手紙は、なんと彼が叔父の遺言の後始末を済ませ、旅の準備をしていたとき、突然熱病に倒れ亡くなったとの知らせだったのです。このときの悲しみはとうてい表現できるものではありません。慰めを得るためにはお祈りと聖書に頼るしかありません。常々私は貴方がみなさんにお示しになさっておられる助言と訓戒を非常に頼りにしていますので、この事態に陥っています私に、貴方の思いやりに満ちたお力添えをお願いします。もし貴方がこの手紙を読まれて私を慰めるというよりかからかいひやかそうという気分になられましたら、火にくべて何もなかったことにしていただきたいと思います。だが、私にとっては耐え難いこの不幸に心が動かされましたら、どうか貴方の一言をいただきたいものと思います。そうしていただけますと、打ちのめされました私にとりましてはこの上なく喜ばしいことです。

敬具

レオノーラ²⁾

愛情面での失望ほど克服しがたいものではありません。恋情によって心が柔和になってしまいますので、降り掛かってくる悲痛悲嘆といったことに立ち向かったり耐えることが出来なくなってしまうのです。他の不幸の場合は、全力で立ち向かうもののなのです。心の中に勇気を奮い起こし、持ち前の力を振り絞ってその衝撃に耐えますが、愛情の場合は、その基盤を絞り取られて

2) 1780年4月の『ジェントルマンズ・マガジン』に掲載されたJ.D.署名入りの手紙によると、第92号のレオノーラはミス・シェパード(後のペリー夫人)であり、第140号のパーシーニアと本号のレオノーラはシェパードの妹であり、二人とも、サー・フリースウッド・シェパードの遠縁にあたるということである。

しまい、瞬く間に不愉快な不慮の災難に押しつぶされてしまいます。

悲嘆に暮れた場合、人は一般に、道德書に慰めを見出すものです。事実、悲しみに襲われた心に活力を与えるためには、道德書は非常に有益です。この方法を認めないサン・テブルモン氏は、読者の気持ちを陽気にさせる著者を推奨し、憂いに沈んだ心に安らぎを与えるものとしては、プルタルコスやセネカよりもドンキホーテだと言います。悲嘆に打ち克つよりも気を紛らわす方が簡単だという訳です。³⁾確かに、この方法は人によっては効果的かも知れません。私はむしろ、災いと不幸の実例を示し、この上ない不幸に見舞われたときの人間性を明らかにしてくれるこれとは正反対の著者を推薦します。

苦悶する内容が非常に重苦しい場合は、とりわけ徳高い仲間がいる場合にはそうなのですが、自分と同程度の苦しみを抱えている人たちと交流することに慰めを見出します。軽少な場合は、他人と比較することで慰めが得られます。途方に暮れたり、病気になったり、友人が亡くなったようなことは、国が焼き尽くされたり、家族の者が殺害されたり、みじめな人たちが地下牢に閉じ込められたりすることを考えれば、些細なことなのです。従って、そういう災難に見舞われて沈み込む場合は、自分の弱さに当惑しているに過ぎないのです。

鬱々としているレオノーラには、亡くなった求婚者のことを思い悩んでいる今まさにこのとき、この世のどこかでは難破で非業の死を遂げる人とか、臨終の悔悛の恐怖に襲われ、大声で慈悲を求めている人とか、不名誉な死刑執行の苦痛にある人とか、その他同様の恐ろしい惨禍に見舞われている人たちがいるのだということを考えて欲しいと思います。自分よりも大変でひどい人たちがいると知れば、自分の悲しみは薄れてしまいます。

悩める私の門弟にもう一言付け加えたいと思います。彼女が現在最大の不幸と考えていることは、おそらく、それ自体は実際にはそれほどのことでは

3) サン・テブルモン (1613-1703) 「ドロン伯への手紙」：「悲しみを追い払うためには、セネカ、プルタルコス、モンテーニュよりもルキアノス、ペトロニウス、ドンキホーテがいい、特にドンキホーテを勧めた。」

ないということなのです。私としましては、分離した状態にある魂は、肉体とはまったく異なった見方をすると確信しています。つまり、現在不幸とか失望と考えていることは、往往にして回避であり祝福だったのではないかということなのです。

少しでも信仰心のある人は、苦悩した場合には、当然信心に救いを求めます。

私は、フランス滞在中に、二人の恋人に関する実に珍しい話を聞いたことがあります。このお話は明日の紙面で詳しくお知らせしたいと考えていますが、このお話は状況が風変わりであるだけでなく、本日の一件の例証として有益であり、レオノーラの心に重くのしかかっていると思える苦悩を和らげるには信仰の力が大切だということを教えてくれます。乗合馬車で一緒になったある司祭からこの話を教わったのです。明日の紙面では、読者のみなさんにその司祭の言葉を出来るだけ忠実にお伝えしたいと考えています。前提条件として述べておきますが、かりに慰めが間違った信仰とか心得違いの信心から得られるとしても、当然、理性と良識に基づいた信仰心のほうが大きな慰めを得られるのは言うまでもありません。

第164号 1711年9月7日（金曜日）

【アディソン】

こうして花嫁が。いかなる猛威がきみに襲い掛かったのか。

ああ、不幸せ者よ、きみだけでなく私をも失ってしまうとは。

いざさらば、夜の闇に包まれて。

きみの姿を目にすればいつだってうっとりする。

甘美な抱擁をせんと弱々しい手を延ばしても無駄だ。

ああ、もはやきみは存在しないのだ。(ウェルギリウス)¹⁾

1) ウェルギリウス『農耕詩』4.494, 497-8.

コンスタンシアは際立った知性と美貌の持ち主でしたが、父親のことでは非常に不幸でした。自らの刻苦勉強によって巨額の富を手にした彼女の父親は、お金にしか喜びを見出さなかったのです。テオドシウスは傾きかけた貴族の次男でしたが、立派な教育を受け学識を積んだ有能な若者でした。テオドシウスが20歳のときに、まだ15歳にもっていないコンスタンシアと知り合いました。両家は二、三マイルしか離れていませんでしたので、彼女を見掛けるチャンスは度々あったのです。立派な人柄と心地よい交際によって、彼女の心には少々時間が経過しても簡単には拭い去れないほどの強烈な印象を与えました。テオドシウス自身も同様にコンスタンシアに魅了されました。交際ははじめて久しくたっても、互いにいくらでもよいところが見つかり、次第に、その後の二人の人生を左右するような気持を募らせていきました。こんな調子でコンスタンシアとテオドシウスの間に愛情と友情に満ちた交際が続いているその最中に、不幸にして親同士の間で修復不可能ないさかいが生じました。一方が家柄を、他方が財産を自慢し過ぎたのです。コンスタンシアの父親はテオドシウスの父親に腹を立てたため、彼の息子へのいわれのない嫌悪感を抱き、彼に家への出入りを禁じ、娘には二度と彼に会ってはならないと申し渡したのです。その間に、父親には二人が密かに自分たちを結び合わせてくれる好機がやってくるのではないかと期待しているのが分かっていましたので、二人の交際を絶ってしまおうと考えて、財産も人柄もよい若い紳士を捜し出し、勝手に彼を娘の夫と決めたのです。彼は直ちにこの一件をうまく取りまとめ、コンスタンシアには結婚相手はこの紳士であり、これこれの日に式を挙げることにすると告げました。父親の剣幕に恐れをなし、有利な条件を備えた相手に何一つ異議を唱えることが出来ないコンスタンシアは、押し黙ったままその提案を受け入れました。父親はコンスタンシアがこの提案を受け入れたのは非常に慎み深いことだと褒め称えました。この仕組まれた婚約の噂は、間もなくテオドシウスのもとに届きました。テオドシウスはこういったとき恋人であれば当然沸き起こる心の乱れに苦悶し、コンスタンシアにつぎの手紙をしたためたのです。

コンスタンシアのことを思い浮かべることは、これまで数年間私の唯一の幸せでしたが、今では耐え難い苦痛となっています。こんなときに生き長らえて他人のものとなるあなたを見ていなくてはならないのでしょうか。二人して何度も語り合ったあの小川も野原も牧草地も、私には苦痛しか与えてくれません。人生そのものが苦しみとなっています。あなたの末長い幸せをお祈りいたします。どうか、私のような人間がいたことはお忘れ下さい。

テオドシウスより

この手紙はその日の夕方コンスタンシアのもとに届けられました。彼女はこれを読んで生気を失いました。翌朝、使者がつぎつぎにやって来てテオドシウスのことを尋ねていくさまを見て、彼女はさらに動揺しました。どうやら、テオドシウスは夜中に寝室から脱け出し行方不明になっているようでした。彼がしばらく前からひどくふさいでいたため、誰もが彼の身の上に最悪の事態が降り掛かるのではないかと危惧しました。彼をこのような極端な行動に走らせたのは、ほかならぬ自分の結婚の噂だと分かっていたコンスタンシアは、心が休まりませんでした。彼女は今では新たな求婚者からのプロポーズにいとも素直に耳を傾けた自分を責め、彼こそがテオドシウスを殺したのだ考えました。要するに、彼女は、自責の念と激しい憎しみの情を喚起させる結婚に応じるよりは、父親の不機嫌を受けてたつ決心をしたのです。テオドシウスのことはすっかり片が付く、かなりな持参金も持たせなくてすむと考えた父親は、娘の執拗な拒絶をさほど意に介しませんでした。さらに、この縁組みを終始、愛情というよりは財産目当ての結婚²⁾と考えてきた近々義理の息子となることになっていた相手への弁明は、それほど厄介なことではないと彼は考えたのです。コンスタンシアは今やお祈りにしか心の安らぎを見出せませんでした。お祈りに専念したおかげで、数年後には猛威を振るった悲しみも和らぎ、気持ちも一種の落ち着きを取り戻した彼女は、その後の人

2) 財産目当ての結婚は、英語で a marriage of convenience というが、この箇所の用例が OED の初出。

生を修道院で送ることにしました。娘の決意が財産を減らすことにはつながらないと考えた父親は、不愉快には思いませんでした。そこで彼は娘の意向を二つ返事で受け入れ、まだ美しい盛りの25歳の彼女を受け入れてくれる尼僧院を探しに隣の町まで連れて行きました。この町には、敬虔で模範的な生活を送っていることで名高い聴罪司祭がいました。ローマカトリックでは、通常、何か大きな苦しみとか悩みを持った人々が非常に高名な聴罪司祭に免償と慰めを求めますが、この習わしにしたがって、我が麗しの修道女はこの機会を捉えてこの著名な聴罪司祭に自らの罪を告白したのです。

ここでテオドシウスのことに目を向けなくてはなりません。失踪騒ぎのあったその朝に、テオドシウスは、現在コンスタンシアが居る町の修道院にやって来ていたのです。何か特別なことがあった場合にはごく普通のことですが、聴罪司祭に守ってもらいたいと切望した彼は、密かに今後はコンスタンシアのことは一切口にしないと誓って信仰の道に入ることにしたのです。コンスタンシアのことは、式を挙げたとされる日を最後に、ライバルに譲ることにしました。信仰に一身を捧げることができるほど学問を積んでいると考える彼は、聖職に就きました。そして二、三年すると、彼の高潔な生活ぶりと交わる人々に与える敬虔な気持ちが評判になりました。コンスタンシアが告白することになった相手は、まさにこの司祭だったのです。この聴罪司祭の氏素性については、コンスタンシアは言うまでもなく、修道院長以外誰も知りませんでした。快活で愛想の良いテオドシウスは、今ではフランシス師という名で通っていました。おまけに、あごひげをのばし、頭は剃って、僧衣をまとっていましたので、尊い修道士の正体は見抜けませんでした。

ある朝、彼が告解場に閉じこもっているとき、コンスタンシアは彼のそばに跪いて胸のうちを打ち明けました。彼女はそれまでの清純な人生を語っていましたが、突然わっと泣き出し、彼自身とも関わりのある箇所に話が及んで行きました。彼女は、私の振舞いが私を非常に愛してくれた人の死につながったのではないかと恐れています、と語ります。生存中あの人がどれほど私のことを大切にしてくれたかは誰も知りません。あの人が亡くなってからと

いうもの、あの人の思い出が私の胸に突き刺さって離れることはありません。彼女はここで口をつむぎ、顔を上げて司祭を見詰めました。涙はとめどなく流れていました。司祭は、彼女の悲痛な想いに感動するあまり、ため息と涙で言葉が乱され、先を続けるようにとしか言えませんでした。彼女は司祭に促されて、涙を溢れさせながら、長々と心のうちを吐露しました。司祭も耐えられなくなり声を上げて泣き出しました。彼は深い悲しみに襲われ動揺したのです。司祭が自分への同情と自責の念の激しさにこのように感動してくれたと考えたコンスタンシアは、深い悔恨の気持ちを込めて、司祭に向かって、罪の償いとして自分は一生独身を貫くこと、そしてそれがテオドシウスを追悼するためにできる唯一の犠牲的行為なのだと告げました。このときまでにはかなり落ち着きを取り戻していた司祭は、長らく用いていなかったテオドシウスという名前を聞き、数年前に他人のものと諦めた当の本人から貞節の鑑のような話を聞いて、再び、泣き出しました。彼も悲しみに打ちひしがれていましたが、悔悛者が悲嘆に打ちのめされているが分かると、時折気を楽にお持ちなさいと語り掛けました。あなたの罪は許されますし、あなたの自責の念もあなたが心配なさるほど大変なことではありませんので、法外に自分を苦しめる必要はありません、と彼女に告げました。その後、彼は落ち着きを取り戻し、彼女に正式の赦免を与えました。そして、明日またやっ来てなさい、そうすればあなたの立派な決意に力添えをしてあげ、励ましの言葉を掛けてあげられるからと申し渡しました。コンスタンシアは引き下がりました。そういう訳で、コンスタンシアは翌朝再び司祭の元に出向きました。内省を重ね熟考のうえ自分を励ましたテオドシウスは、この機会に、悔悛者の心を捉えて離れないいわれのない不安や憂慮を拭い去って今後の人生を元氣よく歩めるよう、精一杯の努力を払うことにしました。そこで、彼は、彼女がベールを着けるようになって、時々助言を続けてあげると約束しました。彼はつぎのように言ったのです。それぞれの教団の規則では会うことは認められないでしょうが、私はあなたのためにお祈りを捧げ、また、親密に手紙でお導きすることが出来ます。あなたが考えておられる誉れある道

を元氣よくお歩みなさい。そうれば、すぐに世俗の力では与えられない心の安らぎと満足感が得られるに違いありません。

コンスタンシアはフランシス師と話が出来たことでとても高潔な気持になったので、その翌日には誓いを立てました。入会式がすむとすぐに、いつものように彼女は尼僧院長に連れ立って自室に引きこもりました。

尼僧院長のもとには、前夜、修練者コンスタンシアとフランシス師との間で交わされた話の内容がすべて知らされていました。尼僧院長はここでコンスタンシアにフランシス師からのつぎの手紙を渡しました。

あなたがこれから始める生活から得られる最初の成果として、私は、死があなたの心に重くのしかかっているくだんのテオドシウスはまだ生きているのだということ、さらに、あなたが告白をした司祭が、実は、あなたがあれほど嘆き悲しんでいるかつてのテオドシウスだったのだお知らせしなくてはなりません。私たちがお互いに抱いている愛情は、上首尾にいったときよりも、失ったときの方がより大きな幸せをもたらすのです。それが私たちの希望ではないにしろ、神の摂理は私たちに優位に働くのです。あなたの想っているテオドシウスはやはり死んだものとお考えなさい。だが、いいですか、あなたのためにいつまでもお祈りしているものがいるのは確かなことなのです。

フランシスより

コンスタンシアは手紙の真意は筆跡に表れていると考えました。彼女は、告白をしている間の司祭の声、人柄、振舞い、とりわけ悲しみに満ちた表情を思い浮かべ、どこをとってもテオドシウスその人だったのだと気づきました。彼女は、喜びの涙に暮れたあと、テオドシウスは本当にまだ生きている、これで心安らかな生活を送り、死を迎えることが出来ると考えたのです。

現在でも、司祭がその後彼女に送った何通かの手紙が、彼女の居た尼僧院に残っており、若い修道女たちに立派な決意と意識を吹き込むために、しば

しばお手本として紹介されています。コンスタンシアが修道院暮らしを始めて10年ほど経過したところで、修道院でたまたま多くの犠牲者を出すことになった熱病が猛威を振るいました。テオドシウスも巻き込まれてしまったのです。テオドシウスは死の床で、コンスタンシア宛てに非常に感動的な祝福の祈りを送りました。その時、コンスタンシア自身も同じ死の病に侵され、意識が混濁するほどになっていました。この種の死の病に襲われた場合、時折意識が戻るがよくあるのですが、医者が彼女を見放したのが分かっている尼僧院長は、コンスタンシアの意識が戻ったとき、彼女にテオドシウスは先程息を引き取られたということ、そしていまわの際に彼女に祝福のお祈りを送ってこられましたと話し掛けました。コンスタンシアはそれを聞いて満ち足りた表情を浮かべました。はしたないお願いかも知れませんが、私の亡骸はどうかテオドシウスの傍らに埋葬していただけませんか。せめて墓場までは私の誓いをかなえて下さい。私のお願いが誓いに反していますでしょうか、と彼女は口にししました。彼女はこの言うとすぐに息を引き取りました。そして、彼女の亡骸は願い通りにテオドシウスの傍らに埋葬されたのでした。

二人のお墓は現在でも残っています。墓石にはつぎのような意味の短い碑文がラテン語で刻まれています。

「司祭フランシスと修道女コンスタンシアここに眠る。二人は敬愛すべき人生を送り、死んでも二人は離れることはなかった。」³⁾

3) 旧約聖書『サムエル記下』第1章第23節：「サウルとヨナタンとは、愛され、かつ喜ばれた。彼らは生きるにも、死ぬにも離れず、わしよりも早く、ししよりも強かった。」本号は広く賞賛された。ウィリアム・ボウヤーは1764年6月14日付けのトマス・パーシー宛ての手紙で、ポーブの『エロイズとアベラール』は本号を下敷きにしたと書いたが、ボウヤーは同時にアディソンもポーブも有名な中世の恋物語を焼き直したに過ぎないと言いたかったのかも知れない。

第165号 1711年9月8日（土曜日）

【アディソン】

聞いたこともないことを表現し、新しい考えに最新の装いをさせ、
新しい言葉を創り出したら、詩神を喜ばせることになり、ついには
許容が濫用を生み出すことになる。(ホラティウス)¹⁾

私はしばしば、わが国に法律、権利、商業の監視を仕事としている人たちがいるのと同様に、外国語の侵入を防ぐ言語の監督官を置いてほしいものと考えて来ました。特に、わが国の言語が全体として価値のある状態であるにも関わらず、昨今のフランス語の流布は目に余るものがあります。²⁾現在行なわれている戦争によって、奇妙な言葉が入り込み、わが国の言語は純度を落としていますため、わがご先祖が今日の新聞で自分たちの功績を読んだとしても、何のことやら理解できないでしょう。わが戦士たちは実に誉れ高く敵軍を打ち負かしてはいますが、フランス語の普及に大層熱心になっています。わが兵士たちは戦闘に強く、自分たちが表現できないほどの手柄を立てます。彼らは自分たちの手柄を伝えるために、それに見合った言葉を持ちたがるのです。したがって、征服した敵兵から見聞きした兵隊仲間だけでしか通用しない専門用語を用いて自分たちの偉業を伝えて来る訳なのです。しかしながら、外務大臣のもとに書記官を配備して、この書記官たちを従軍させ、平易な英語で勇敢なる彼らのありまさを伝えさせるべきです。確かに、フランスでは戦争報道は英語で発表し、軍事行動を理解しにくくした方が道理にかなうことでしょう。外国語で言い繕われ、詳細を目立たなく曖昧にされると、フランスの人たちは内心事態はそれほど悪くはないと信ずるかも知れません。しかし、わが国では、そんなことをする必要はありません。戦況をありのまま伝えれば、わが軍はますます誉れ高くなり、称賛されることになるのです。

1) ホラティウス『詩の技法』48, 50-51.

2) 第45号, 第135号参照。アディソンは、外来語とくにフランス語の侵入によって、言葉が乱れていることを嘆いている。

私自身のことを言いますと、攻囲戦が二、三日続きますと、全く訳が分からなくなり困惑してしまいます。不可解な言葉が頻出しますため、ロンドン塔の大砲で陥落の知らせを聞くまで、どちらが優勢であるのかほとんど分からない状態なのです。実際には、要砦は外国で考え出されたものであり、こういった戦況を述べる時には外国語がふんだんに登場するのは致し方ないものと考えています。だが、イギリス的な戦闘で勝利を収めた場合には、わが国の新聞に理解できない用語を盛り込む必要はありません。フランス軍征服の様子を知るのにフランス語の力を借りる必要はないのです。あくまでも彼らの恥辱の装身具とすべきなのです。ブリテンは元々ローマの劇場内に作られたものです。ということは、幕をあげて観客に彼らの敗北のありさま見物させるチャンスを提供することになるのです。

そういう訳で、ドライデン氏はウェルギリウスの詩句をつぎのように紹介しています。

「織り合わされたブリテンは、幕をあげ、勝利の喜びを表しているようだ。そして、彼らの恥辱を見せびらかすのだ。」

わが国のこれまでの戦いの様子は、現代の偉大な批評家によれば、わが国の言葉を用いて伝えられているのです。³⁾エドワード三世はしばしばフランス軍の戦闘態勢を理解し、打ち負かしましたが、どんな年代記を見ても、彼が敵軍を「偵察した」とは記載されていないのです。黒太子は鉄舟(ポンツーン)がなくても幾多の川を越えたとし、水路を埋めるにしても、今日の将官たちが束柴で行なっているのと同じように、薪束を用いてうまくやったのです。新聞に厄介な言葉や意味不明な表現がふんだんに使用されるために、指揮官への賞賛の念は半減しますし、私たち国民の喜びも半減してしまいます。私は、分別のある多くの人々が、新聞記事を読んだ後、隣人にどんなニュースかと尋ねているのを見かけたことがあります。

わが国が最大の不安と憂慮から解放され、これまでにない喜びに包まれた

3) ニコルズによると、この批評家は古典学者リチャード・ベントレイ(1662-1742)とのこと。

あの注目すべき年、そうです、プレミアムの戦いのあった年に、私は外国の地で戦っている若い紳士が飾り気のない資産家の父親宛てに書いた手紙の写しを入手したことがあります。この手紙には今日の軍隊がもつ雄弁さが実に見事に物語られていましたので、ここで読者のみなさんにご紹介したいと考えます。⁴⁾

拝啓

フランス・バイエルン連合軍側は、彼らが通行不可能と考えた湿地の向う側に陣取ったのです。翌日、「小高い丘」に陣取ったわが軍の将官は、騎兵隊を派遣し、敵軍の「偵察をさせた」のです。わが騎兵隊は敵軍まで15分のところまで接近し、敵軍から数回に渡る「攻撃」を仕掛けられたのですが、わが陣営まで無事引き返して来ました。この交戦でわが軍は「襲って来た」フランス兵たちを「無条件」降服させ全員捕虜としたのです。その後、「鼓手」が将官宛ての書信を携えてわが陣営までやって来ました。鼓手はとても生意気な振舞いの「ラッパ手」を一人従えていましたが、彼はババリア公の書信を携えていたのです。翌朝、わが軍は「二手」に分かれて、進軍しました。この日のわが軍の華やかな活躍ぶりはそのうち活字にされてみな知るところとなるでしょう。好運にも、私は「憲兵」を相手にする部隊に加わっていました。「予備軍」という人がいますが、フランス部隊のいくつかは若干の抵抗を示しました。だが、それも「ほら話」に過ぎませんでした。わが軍が攻撃を仕掛けるために「掘割」を埋める準備を始めると、敵軍は談判申し込みの太鼓を鳴らし、「白紙委任状」を持って来たのです。敵軍の無数の兵士をはじめ、将校から司令官に至るまで全員を捕虜にしました。「捕虜交換協定書」はまだ締結されていませんが、そのうち、彼らはイギリスに送られるものと思います。こういった顛末が父上に歓迎されることは間違いないものと思わ

4) この手紙には15のフランス語（「 」で示した）が登場する。例えば、OEDでは英語に組み込まれたフランス語として、corps（軍団）と maraud（襲撃）は本紙を初出例として取り上げている。

れますので、詳細にお伝えした次第です。

忠順なる息子より

この若き紳士の父親は、手紙を読み終えて大事な情報が盛り込まれていることは分かりましたが、それが一体何であるかは理解できなかったのです。彼は直ちに教区の牧師補さんに相談に行きました。その手紙を読んだ牧師補さんは、理解不可能な内容に苛立って怒り出しました。そして、お父さんに向かって、息子さんは全く得体の知れないことを書いて寄越したものですな、と言いました。大尉は書信を携えて来たのは生意気な「ラッパ手」と「鼓手」といっていますが、気が触れていなければいいのですがね、と彼は付け加えます。それに、この「白紙委任状」というのは一体誰のことですか。彼は我々をからかっているか、気が違っているかのどちらかです。常々牧師補が博学だと思っている父親は、内心では息子の語法にじれはじめ、三日前に届いた手紙を差し出しつぎのように言いました。これを見てください、金の無心をするときには、よく分かる言い方をしています。新しい馬具が欲しいときには、実に明晰に己の気持ちを表現しているのですよ。これほど明晰な文章を書けるものは国中見回してもそんなにいるものではありません。要するに、このお年寄り、同じような語法で書かれた三日後の新聞を目にしなかったら、つまり、息子のチャールズがおかしくはなかったのだということに気づかなかつたら、息子は気が触れてしまったのかも知れないと思うほど気が動転してしまったのでした。